

教科名	(自由選択)	科目	論文	単位	(1単位)
-----	--------	----	----	----	-------

1. 教科書・テキスト・プリント

各担当者からの配布資料

2. 授業の目標および内容

さまざまな現代的事象に対して、論理的に思考・判断し、表現する力を育成します。

小論文は、単に「獲得した知識を原稿用紙に書き出せば良い」などという安易なものではありません。勿論そのような程度のものも存在しますが、小論文の中心は「思考力」です。単に知っていることを表現するのであれば、「政治・経済」など教科・科目で論述試験を課せば良いのです。そうではなく、解答者のものの考え方や深く考える力、モレなくダブリなく思考する力、複雑な現代社会に配慮しつつ提案するための思考力、こういったことを求めています。つまり、問われているのは軽率で短絡的ではない、粘り強く「考える力」です。

小論文の学習というと、とにかく「ネタ」のような知識を詰め込めば良いと考える人がいますが、これは明らかな誤りです。無論、最低限の知見は得ておく必要はあります。そうでなければ、考える土台が築かれていないこととなります。しかし、「ネタ」的な知識を多く得ることで、小論文を書く際に論旨をそちらの方向にどうにか持っていこうという思考習慣ができてしまいます。このような学習方法は、「考える習慣」を奪っていると言えます。同様に、決められた「型」に則って小論文を書くようにする人がいます。これも明確に誤りです。言うまでもなく、小論文には「作法」があり、「このような考え方・述べ方をすることが多い」というものはあります。が、これは決まりきった「型」などではありません。「型」への当てはめは、先ほどと同様「考える習慣」を奪うことです。現代社会に横たわる様々な複雑な課題に対し、自らの頭で「考え」、その課題に対してはどのような述べ方が最適なのかを「考える力」が問われる小論文で、このように「考える」ことを放棄するような学習方法が好ましくないのは当然です。

本講座では、小論文を書くために必要な思考力を身につけるべく、そのための方法や思考の基盤となる知見を得て、自身で小論文を書く訓練をします。

小論文で鍛えられる「考える力」は、小論文のみならず、プレゼンテーション、大学の講義に参加、グループディスカッション、面接、長文での志望理由書の作成など様々な入試の場面に生かされます。大学も多様な観点からその受験生の資質・能力、主体性や協働性等を試そうとしています。小論文の訓練は、小手先の技術だけでは対応できない、忍耐強さが求められるわけです。

3. 試験について

	1 学期		2 学期	
定期試験	実施しません	実施しません	実施しません	実施しません
学力試験	実施しません		実施しません	

※内容・評価等について

定期試験・学力試験：実施しません。

4. 長期休業中の課題

夏季休業前に指導担当者を決めます。その上で、実際の志望校・入試に個別に対応します。

5. 評価の観点

思考力・判断力・表現力等です。各大学が求める能力をきちんと把握しておきましょう。

授業計画

学期	単 元	学 習 内 容	備 考
前年度 3	○課題指示 (3月中旬・修了式の日)	○「小論文基礎資料」記入・提出 ○シラバスを用いて「小論文」の目的を紹介し、この講座を受講する覚悟を促します。	志望校調査。
1	〔第1回〕 ○ガイダンス ○小論文の作法や論理構成 ○現代知の枠組み(参考) 〔第2回〕以降 ○小論文テーマ各論、及び小論文演習 〈テーマ例〉 ○教育 ○環境・メディア ○法学 ○国際/ライティング ○経済/医療 ○人文/科学 〔最終回〕 ○個別指導担当者決定 (7月上旬)	○ガイダンス、担当者の紹介、受講生の志望先・覚悟の確認をします。 ○個々に過去問の収集と分析を進め始めましょう。 ○小論文とは何か、小論文はどのように組み立てていけば良いかを学びます。 ○参考資料を通じて「現代社会」においてどのようなことが問題になっているのか、近代的思考の課題や現代との繋がりについて、知識を得ます。 ○小論文の問題として想定されるテーマについて、講義を聞いたり、ディスカッション等によって考えを深めたりすることで、基礎的な知識を得ます。その上で、提示された小論文の課題に、各自家庭で取り組み、期限までに提出箱に提出します。 ○必ず初回で学んだ「小論文の作法や論理構成」を踏まえて小論文を書きましょう。 ○次回の冒頭で、講義担当から添削の総評を聞き、自身の小論文がどうであったかを振り返ります。 ○個々の添削を担当者から受け取り、振り返ることで、次の小論文に生かします。 ○夏休みの指導や学習課題の打ち合わせ、入試までの計画を行います。	*生徒の志望学部系統別に分け、指導をする。
2	〔2学期〕以降 ○個別指導	○生徒個々の志望に応じて、担当者と生徒が個別に学習します。過去問題や対策問題の演習、及び添削を行います。	*過去問の収集と分析が必要である。